



大先輩をお招きしての座談会
**「鶏口牛後」 自分の才能を磨き上げて
 ブランド力を身につけろ!**
 本田商會株式会社の本田会長をお招きして
 お話を伺いました。

本田会長は、昭和37年に本学の前身である長崎県立佐世保商科短期大学に入學され、佐世保商科短期大学卒業後、日本大学経済学部へ進まれた。その後、東京での会社勤めを経て本田商會に入社、平成2年には同社の代表取締役として社のさらなる成長を導き、現在は会長として経営を見守っておられます。また、長崎県アジア産業交流協同組合の理事長を務められるなど、長崎県の企業と海外企業との関係強化に貢献され、特にベトナムとの交流におい

ては、国家主席の信頼を得て、その御人脈により様々な取組に寄与されています。さらに、若者への教育活動にも熱心に取り組み、県下の高校で催される「心に響く人生の達人セミナー」の講師としても活躍されました。

このように、幅広く活躍される本田会長に、母校である長崎県立大学（佐世保校）にお越しいただき、学生広報スタッフとの座談会というかたちで、お話を伺うことにしました。

□今の長崎県立大学についての印象をお聞かせください。
 大学の現場に疎いので良く判らないけれども、施設や学生の様子、世間での評判も含め勘察したところでは、素晴らしい大学に成長されていると思います。特に、海外を視野に入れ、海外から日本を見る目を養うことが、今の若者に必要だと考えておりますので、そうした教育を実践されていることは、今後の戦略としても、企業ニーズに叶ったことだと評価しています。

しかし、平成30年に講演に

招かれた際には、大人しい学生が多いなと感じました。自分の思い、考えを積極的に発言する姿勢、自己主張が少ない印象を受けました。今は、物怖じすることなく自己主張ができること、イエス、ノーをはっきりと言える人材が求められていると思います。

□当時の学生と今の学生とは違う印象がありますか。
 今の学生さんたちには、ハングリー精神が希薄だなと感じます。私が学生の当時は働く場所が少なく、アルバイト先も限られていて、職業安定所が日雇いの斡旋をしていた時代です。そんな時代の中にあつて、学生はハングリーでした。飽食の時代のせいでしょうか、今の学生さんには、貪欲さというか、ハングリー精神が希薄だなと感じます。

□本田会長は、若い頃に御両親を亡くされるなど、私達には想像もできない御苦労があったと思いますが、御経験の中で、今の御成功に通じる点などありましたら教えてください。

私は農家の家に生まれたんです。農作業を経験していることは強みだと感じます。それから、夜学を経験したことです。昼間働いて夜学ぶ、これを諦めることなくやり遂げたことが、何にも負けないという根性を鍛える結果になったのではないかと思っています。東京のメーカーで10年間勤務し、結婚して本田商會に入社しました。その後もいろんな苦労がありました。でも、苦労を、試験だと思って、プラスに考えることが大切ですよ。これからの自分をもっと豊かにするために神様が与えてくれた試験なんだと思つて、この試験を乗り越える、それが大切です。

何故、自分だけこんなに苦しむのかと考えてはだめです。周りの人が幸せに見えてしまう。それでは物事は悪い方向にいつてしまいます。皆さんはこれから、試験に直面することがあるでしょう、そんなとき、是非、将来の自分のためだと信じて、それを乗り越えて欲しいと思います。自分のためになることなのだから、もっと試験をください

と祈ってください。

□これから社会に出るための準備として、今、私達はなにをなすべきでしょうか。

神様は万遍なく一人一人に才能を与えてくれてます。学生であるうちに、できるだけ早くそれを見付けてください。いろんな職業があります。自分の才能を発揮できる仕事に就いて欲しい。

自分の才能、自分が得意とすることを徹底的に鍛えてください。鶏口牛後、自分の才能を財産と考え、磨き上げてください。それが貴方達のブランド力になります。ブランドというと、有名大学出身とか、学歴のように思うかもしれませんが、それは違うブランドを身に付けることです。

確かに学歴もブランドかもしれませんが。世間はそういう目で見ます。それは認めなければならぬ。しかし、必要なのは学力でしょう。学歴じゃない。学歴で後ずさりする必要はない。学力、つまり能力が求められるわけで、学歴がなにかを成せるのではない。

い。自分の才能を磨き上げ、精一杯勉強して学力、能力で闘ってってください。

□私達は社会に出たあと、どのように生きていくべきか、何を意識していくべきでしょうか。

自分に何ができるだろう、今、何をなすべきか、常にそう意識してください。そうすれば、何かに気づくことができます。

アメリカが日本の10年先を進んでいた頃、団体で視察に行った人達の中でも、そうした意識をもった人と、旅行気分で行った人では大違い。何か新しいビジネスがないかとか、アメリカはどこへ向かっているのかとか、そういうことを意識している人とそうでない人では全く違ってきます。社内でも同じです。常に意識している人とそうでない人では、電話の対応や取り次ぎでも違う。上司に取り次いだときの要件の伝え方、伝える内容が違う。そうしたことを上司は見ています。今、上司に何を伝えるべきか、どうすべきなのか、それを意識し

ている人は違う。そうしたことの積み上げが貴方のブランド力になり、この人なら仕事を任せられるという判断に繋がります。ブランドの時計と同じです。安い時計もブランドの時計も時間を知るだけなら同じ価値です。でも、人はブランドの時計を欲しがります。もっとちゃんとやれるということを認めさせたら、それがブランド力になって、上司はそれを求めるんです。そうしたら、この人に任せたいとなるじゃないですか。

□私達学生へのメッセージをいただけませんか。

是非、いろんな経験をしてください。私は、自分の人生に役に立ったと思うのは、農家に生まれたことだと思っています。これに一番感謝している。それは何かという、牛、馬、鶏、兎、皆、それぞれ私達が飼つて、お正月になつたら鶏や兎を潰して食べるとか、自然の中で生活をしてきたんですよ。家に馬小屋とか牛小屋があつて、糞の掃除をするというのは子供の仕

事なんです。当時ですからね、馬や牛、鶏とも接する。そういう中で、生き物を愛するといった気持ちが育まれるんですよ。こうした経験は、有り難かつたと思つています。

今の皆さんは、そうした経験は難しいと思いますが、いろんな経験が心を豊かにするんです。積極的に活動して、学生時代も、社会に出てからも、いろんな経験をして欲しいと思います。

□最後に、学生時代の思い出話を一つ教えてください。

そうですね。22歳ぐらいのときです。野球部のキャプテンをしていたんですが、インターカレ (Intercollegiate game) 大学間対抗試合に出るための予算をつくるためにダンスパーティーを開くんですよ。そのときに、今のシール校は長崎県立女子短期大学、佐世保商英部という短期大学、全然独立した大学だけど、繋がっているから、そのときだけダンスパーティーの招待状を出すんです。それが一番の楽しみだったんです。県

立女子短大の人達が沢山来るわけ。こっちは男女共学でしたから。それから、佐世保市以外の若い人達にもチケットを売るんですよ。儲けないといけないから。その企画の中心になつていたんですが、そうしたらね、税務署が来たんです。税金を払つてるのかつて。学生時代ですから知りませんよ、税務署なんて。本田さん、ちょっとお客さんですよ。よって、ダンスパーティーの最中ですよ。

貴方が責任者かね、収入はどうなつてたのかつて、収入と支出を出しなさいつて。そのときはびっくりしました。

●まだまだいろいろなお話をお聞きしたかったのですが、時間の都合で、今日はこれまでに。

今度、母校を訪ねたい。本田会長のサラリーマン生活など、詳しく教えてください。本田会長には、お忙しい



Round-Table Discussion